

新本っ子

学校通信 No. 49
令和6年1月発行
新本小学校

【学校教育目標：豊かな人間性をもち、実践力のある子どもを育成する】 令和6年1月22日

新 自分で考える子 **本** 本気で取り組む子 **義** きまりを守る子 **民** みんな仲良く元気な子

総社中ブロック学力テストを実施 全校児童



19日(金)、全学年で学力テストを実施しました。教科は国語と算数。各児童が1年間の学習の成果と課題を把握し、進級、進学に向けた準備を行うことをねらいに、総社中学校区の小学校で毎年この時期(1月)に行っています。6年生は2か月余りで中学校に進学。黒板には、「**あ**きらめない！(→何か書こう) **じ**しんをもって！**よ**く問題を読む！**く**りかえし見なおし！」の板書もあり、気構えを感じることができました。開始後は各学年集中し、真剣にテストに向き合っている様子を感じることができました。

解答用紙の写し(実物は調査元に送付)をもとに自校採点を行い、学習の成果と課題を踏まえ、次年度に向けた指導に生かしていきたいと思えます。結果について保護者の皆様には、2月下旬以降(調査元から結果到着後)、送付の予定です。

学校給食週間について【朝礼講話(1月22日)】

学校給食の始まりは今から135年前の明治22年(1889年)。山形県の鶴岡町の小学校で、学校を建てた坊さんが、家庭が貧しくてお弁当を持って来られない子どもたちのために、お昼ごはんをだしたのが始まりとされています。この時のメニューは、おにぎりや焼き魚、漬け物だったそうです。



その後給食は全国に広がっていきましたが、昭和16年、太平洋戦争が始まると、次第に食べるものがなくなり、給食は中止されました。

戦争はやがて終わりましたが、食べるものがなく、おかゆに雑穀やいもをまぜたものなど、とても貧しい食事で、子どもたちはおなかをすかせ、この頃の6年生の身長は今の4年生ほどしかなかったそうです。

こうした様子を見かねたアメリカの支援団体などから昭和21年12月24日に、給食用に脱脂粉乳や小麦粉、缶詰などの食料が東京の小学校に贈られま

【裏面に続く】

した。この支援食料を使って、学校給食が再び始められることとなりました。

昭和21年12月24日、東京の小学校で、支援物資の贈呈式が行われました。この12月24日を記念して「学校給食感謝の日」と決めました。しかし、12月24日は、冬休みに入ってしまうため、その1か月後の1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とし、学校給食の役割や意義について考える週間としました。



さて、新本小学校の給食の歴史についてはどうだったでしょうか。昭和23年4月から、給食が開始されました。開始当時の給食は毎日ではなく週3回、脱脂粉乳によるミルク給食だったそうです。それから9年後の昭和32年にごはんやおかずも作れるように給食調理場を改造し、9月から完全給食を開始しました。昭和35年からは今と同じ週5回になりました。【給食が始まった頃の新本小児童の作文を紹介】

(中略) 当時の給食を、今皆さんが食べたら「おいしくない」と感じるかもしれません。作文にもあるように当時は食べ物があるだけで幸せでした。

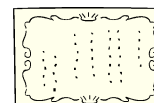
さて、今の給食は様々なおかずに、ご飯や麺も登場し、時々デザートもついてきます。本当においしいですね。



毎日おいしくいただいている給食は、給食センターの先生や調理員さんを始め、配送の方々などたくさんの方々に支えられています。また、私たちが食べている食べ物は、もとをたどれば全て生き物です。肉や魚、お米や野菜など、動物や植物の命をいただいています。食べ物になった命のおかげで私たちが生かされていると考えると食べ物を無駄にはできませんね。

こうしたことを考え、給食に携わっているすべての方々や食べ物に感謝して、大切に食べていきたいと思います。

文部科学大臣表彰記念品展示



「新本っ子47号」で紹介しました標記の表彰式が、1月16日(火)、東京大学安田講堂にて執り行われ(校長出席)、賞状並びに記念盾をいただきました。つきましては、明日1月23日(火)の参観日に教室棟昇降口に展示しますので、ご覧ください。

大谷選手のグローブ今週届く

メジャーリーグ・大谷翔平選手から全国小学校に贈られるグローブが総社市に今週届くとのことのお知らせが市教委からありました。



大谷選手からのグローブの贈り物を楽しみにしていた児童も多いことと思います。到着後、グローブを全校に紹介し、大事に使いたいと思います。